

いにしえ

ふ

古の文化に触れる夏休み

小・中・高校生対象



この夏、日本の
能の
三つの伝統文化に
触れてみよう！

能・茶道・華道の体験

& 能面・能装束の特別展示

無料

令和3年8月8日(日)・9日(月)

● 第1部13時～ ● 第2部15時半～

仙台国際センター【展示棟 展示室1】

■ お申込みはこちら (メールのみのお申込みとなります)

bunka_sendai@yahoo.co.jp



子供たちのための伝統文化の
体験機会回復事業

文化庁

会場 仙台国際センター 展示棟 展示室 1

入場料 無料

対象体験者 小・中・高校生に限ります。

講師 喜多流能楽師 佐藤寛泰 ほか

石州流清水派宗家 大泉道鑑 ほか

池坊引立教授 大泉翠寿 ほか

主催 「古の文化に触れる夏休み」実行委員会

共催 仙台市能楽振興協会

後援 仙台市・仙台市教育委員会

協力 (株)寛松能・せんだい演劇工房 10-BOX



株式会社

一の方

■ コロナウイルス感染予防策を講じた上での開催となります。
マスク着用でのご参加ご理解ください。

今回体験できる三つの伝統文化

能は650年以上も続き、またユネスコ世界無形文化遺産の第1号に登録された日本古来の芸能です。自身の体や声を使い、心情や景色・目には見えないものをまるでそこにあるかのように、所作を用いて内面の力で表現をします。能の動きである舞(まい)と発声の謡(うたい)を能楽師がわかりやすく指導いたします。能を実際に体験して感性を磨いてみてはいかがでしょうか。

我が国の喫茶の歴史は古く、奈良時代には中国留学僧等から伝えられました。15世紀後半に、「茶と禅は同じ」と考えた村田珠光が精神性を重視して日本固有の文化になった「わび茶」を誕生させました。その後、これを完成させたのが茶聖千利休です。江戸時代に入ると、徳川将軍家の茶道石州流が全国各地の大名・武士階級に普及し、ここ仙台藩でも四代藩主伊達綱村公の時代に石州流清水派が確立し、全国各藩にも広められました。

つぼみを見て未来を感じ、枯れた花にいのちの軌跡を想う。草木の移りゆくあらゆる姿に美を見出す池坊のいけばなは、550余年の時を越え、育まれてきました。お花が好き。その気持ちがあればどなたでも楽しめるいけばな。花に触れ、花と向き合う時間を一緒に楽しんでみませんか？



能

講師
佐藤 寛泰
(さとう ひろやす)



茶道

講師
大泉 道鑑
(おおいずみ どうかん)



華道

池坊引立教授
大泉 翠寿
(おおいずみ すいじゅ)

喜多流シテ方
喜多流職分
1986年生まれ
佐藤章雄の長男。友枝昭世・狩野了一、及び父に師事。
佐藤家は代々仙台藩伊達家のお抱え能楽師(乱舞方大藩士)であり喜多流職分家で、12代目。

88年独吟「老松」にて初舞台、89年能「隅田川」にて初子方、95年能「経政」にて初シテ。以後「狸々乱」「道成寺」等々の大曲を抜く。

東京芸術大学卒業
能楽協会会員
十四世六平太記念財団評議員
「佐藤寛泰之会」「能への誘い」「寛松会」主宰
山梨学院大学iCLA非常勤講師

東京・岩手・仙台・甲府・米子等の多くに自身教室の「寛松会」を主宰し、能楽愛好家や早稲田大学・山梨学院の大学サークル等の若年層にも謡と仕舞の指導にあたる。仙台では公演や講座を行い、宮城学院女子大学・東北大学・東北学院大学でも授業や講義を受け持つ。

1942年7月13日生まれ。
先代の母十世大泉道鑑の二男。東北大学大学院薬学研究所修了、東北大学名誉教授。伊達政宗公が茶道頭(藩主の茶道指南役)にすえた一世清水道閑から続く茶道の十一世宗家。

流派は、四代藩主・伊達綱村公の茶道頭・三世清水道竿が確立した石州流清水派。

現在、茶の湯文化学会会員、仙台藩志会常任理事、「政宗公ワールド」プロジェクト理事。流祖三世道竿著『道竿拾躰』さらに、家伝の二世清水動閑著『動閑茶湯書』のなかの『露地之書』及び『茅葺数奇屋寸法』をそれぞれ十世道鑑と共著の論文にまとめ、『茶の湯文化』に発表。現在まで未公表の『動閑茶の湯書』の残りの9冊の解説研究を継続中。

池坊いけばな歴40年、池坊中央研修学院総合特別科修了、池坊中央研修学院特命教授柴田英雄生花ゼミ修了
池坊特別会員、池坊中央委員
宮城県華道連盟会員
池坊大泉いけばな教室主催
・駅前通り教室
・荒井教室

